

# 地域版

## 個々の悩みに合った情報を



神戸アイライト協会理事長の森一成さん(右)と、いずれもスタッフで歩行訓練士の住吉葉月さん(中央)と三輪陽子さん(左)＝いずれも神戸市兵庫区で

### 聞いて!

視覚障害者を支援する認定NPO法人「神戸アイライト協会」(神戸市兵庫区)が4月、設立25周年を迎えた。自身も視力低下や視野狭さくなどで生活に支障がある「ロービジョン」の同協会理事長、森一成さん(70)は、視覚障害者の心に希望の光をともし続けてきた活動の必要性を訴えた。**【まとめ・桜井由紀治】**

協会設立の経緯を教えてください。  
◆見えにくい、見えにくい状態になると、歩くのが難しくなったり、読み書きが難しくなったり、仕事をしている人は、サポートポイントが、神戸にはなかったり、今までできたこと、救援と支援を受けた

### 神戸アイライト協会

神大震災(1995年)後の活動を引き継ぐ受け皿もありませんでした。神戸に拠点を根付かせようと99年、盲学校教師を退職した私一人で設立しました。今は常勤職員が12人、非常勤が8人。ボランティアも1日平均10人が手伝ってくれています。

相談にはどう対応していくのですか。  
◆私たちは、個別の困りごとに合わせて改善する方法を一緒に考えて、必要な情報を提供しています。それを私たちは「見えづらさ対応術」(視覚のリハビリテーション)と呼んでいます。

◆全言になっても一人で歩いたり、パソコンやスマホを使ったりして見えているときと同じように仕事や生活をする対応術があることは、ほとんど知られていません。その対応術を教える「歩行訓練士」という専門職の存在も知られていません。そうした専門職が、見えづらさを抱えた人をサポートする事業があることも当然、知られていません。

◆必要な情報が伝わっていないのです。◆それを知らないために、中途視覚障害者が事故に遭ったり、仕事を辞めざるを得ず家にひきこもったり、最悪の場合は絶望して、自ら命を絶つたりすることが起こっています。私たちはそういった悲劇を止めたい。

◆森さん自身も視覚障害があるんですね。  
◆私は緑内障を患うロビジョンです。視野狭さくがあり、例えば信号があるのが分からなくて、赤信号で平気で渡っ

てしまうことがあります。悲観的にならず生活できているのも対応術のおかげです。この記事が多くある程度歩いているのを見えづらさの困りを抱えている人にとって、対応術を知る機会になれば幸いです。盲学校教師をしております。

◆26年目に向けた活動の課題は何でしょう。  
◆事業を委託している神戸市からの予算が大幅に削減され、事業継続が困難な状況にあります。大赤字を抱えながらも、賛助会員会費や寄付のおかげでなんとか持ちこたえているのが現状です。改善の見通しが立たなければ、事業撤退を考えなければいけません。視覚障害者とスタッフの雇用を守るためにも、引き続き支援をお願いします。

◆神戸アイライト協会◆  
神戸市兵庫区水木通2の1の9 中山記念会館内。相談電話078・5331・6371。無料。火・土曜10〜16時。賛助会費年間1口3000円。会費・寄付金は郵便振替口座「00960・6・202643神戸アイライト協会」。代表電話078・5331・6340。

神戸アイライト協会には、100種類以上の白杖が展示され、自分に合った白杖を選ぶことができます。